

【美波町】伊座利集落

いざりしゅんかく



「逆境を楽しむ」住民の行動力が拓いた漁村の未来 漁村留学とカフェが生む交流、笑顔あふれる持続可能な暮らし

美波町の東端、三方を山に囲まれ、かつては「陸の孤島」とも呼ばれた伊座利集落。商店も郵便局もない小さな漁村だが、ここには不便さを嘆くのではなく、逆境を楽しみながら力強く生きる人々の姿がある。太平洋に面した豊かな自然と、底抜けに明るい住民の行動力が、この集落を支える最大の資源である。

平成12年、過疎化により小中併設校が廃校の危機に瀕した際、「学校がなくなれば地域は衰退する」と住民たちが奮起した。行政と深く危機感を共有し、互いに知恵と汗を出し合う「協働」のパートナーとして、地域づくりを加速させた。「地域のためになることなら、自分たちでできることは何でもやる」という住民の覚悟と行政の支援が噛み合い、全国に先駆けて創設された親子受け入れ型の「漁村留学」制度は、移住者を呼び込み、地域に新しい風を吹き込む大きな転機となった。

その活動は多岐にわたる。食事処がないなら作ろうと、「イザリCafe」をオープンさせ、新鮮な魚介料理で多くの来訪者を魅了している。また、住民総出の「共楽運動会」は、「おっちゃんたちの勝手なルール変更にも負けず頑張ります！」の宣誓で始まるユニークな行事として知られ、集落全体が笑顔と熱気に包まれる。

さらに、東日本大震災を教訓とした「防災も地域づくり」の精神で、楽しみながら防災意識を高める独自の訓練も実施している。移住者や地域外のファン（いざり人）を巻き込みながら、前例にとらわれない柔軟な発想と主体的な活動で、持続可能な集落のモデルを築き上げている。



(写真上) 漁村留学で移住してきた子供たちを対象に、住民（漁師）が先生となった「ひじき刈り体験」。豊かな海の恵みと技を学ぶ場となっている。

(写真下) 住民がこぞって参加する「共楽運動会」。子供も大人も一緒になって邪魔をし、ちょっとやそっとでは抜けきれない名物「障害物競走」の様子。

伊座利の未来を考える推進協議会

住所 / 徳島県海部郡美波町伊座利 伊座利漁業協同組合内

代表者 / 坂口 進

連絡先 / 0884 - 78 - 1185